

# 英語は依頼文から学ぶと話せる

ようだ  
！？

イングリッシュ  
スクライバー  
ポスター

源  
光

日本人で英語を6年以上もやっているにも拘らずどうして上手く話せないんだろう！？

と！？よく聞く疑問だ。

他の国の方は1年くらいでもすぐに話せるようだ。

言うまでもない。

センス！？

外国人と日本人のセンスの差だ。

例えて言うと「私はレースをやっている」と伝えて見よう。

頭へ浮かぶのは私・レース・やっている！の順となる。

欧米人はどう浮かぶかと言うと？

私・やっている・レースと浮かぶのだ。

この差を知らずして英語の出来ない理由を語れないのだ。

更に決定的と言える差は住所の表記だろう。

日本の場合は全体主義だから、国から県となって、市となってようやく個人となる。

けども欧米では個人主義だから、個人から市とな

って、州となって国と言う順番で表記するのだ。  
えらい差と言える。

これをセンスの差と言うのだ。

よってだ。

頭の構造だって変わってくる。

順番を追って相手に伝えようとする日本人。

順番より重要なことを先に回して伝えようとする欧  
米人。

そう言うところを頭へ入れなければ、どうして！？日  
本人は英語を不得意とするかは語れないのだ。

更に日本人は音節をはっきり言う癖を付けている。

もごもごと言うのを許さないのだ。

だけども欧米人はもごもごと言う。

この部分さえも特徴的と言える。

「か」と言う場合はKとAを合わせてKAとなる。

日本人の場合は文字通り「か」となる。

だけども欧米人の場合はどっちかと言うと「くあ」と  
なるのだ。

言うまでもない！

欧米人にはKと言う音を実在させている。

「ク」と言う子音であり無声音であるものだ。  
言うなれば欧米では母音と子音を区別をされている。  
だからかCASTと言う日本語のキャストと言う読みは  
正確に言うと「キュアストゥ」となる。  
後はライトと言う書く！？意味の単語を見うけるけど  
表記はWRITEとなる。  
Wは日本語では発音をされないけど！？  
英語ではウーとなって「ウーライトゥ」と言うのを正  
しくする。  
ただライもルィと言うのを正しくする。  
日本人は悪いけどこのようなものを理解する頭を持って  
ないのだ。  
だからか正確に話せないし聞きとれんし路頭に迷う結  
果となる。  
大ハンディーなのだ。  
その微妙と言える音を判別するのは右脳と言うところ  
であり、ファジーな音を細かく聞き分ける。  
左脳は言うまでもなくはっきりした音を聞くところだ  
。  
専門家の話だと左脳偏重の多い日本人は右脳貧弱でも

あるから、このようなファジーな音を聞き分けられないらしい。

原因はと言うと！？

同調圧力主義の考え。

左脳偏重。

相手を進んで理解しようとされない根性だ。

この状態を拭いさることで英語は話せる状態となる。

そもそも縦社会の日本では、上司へ上申するときは、ものごとを順番に言わなければ怒りを買うこととなる。

だからか丁寧に順番に言うことを日本語の特徴とするようだ。

北方民族さえもこのような特徴を持っていると言える。

遊牧騎馬民族は、上下のヒエラルキーに縛られているから、モンゴル語・朝鮮語・満州語などは同じ語順となっている。

だからと言ってこの民族は英語は不得意かと言うとそうでもないようだ。

私はモンゴル語と朝鮮語を嗜んでいるけど、母音と子

音をはっきり区別できるから、英語をマスターするのもこの民族は早いんじゃないかと思っている次第だ。母音と子音とを区別している民族は右脳だって良くする。

その区別のない日本人は左脳だけを大きくして、細かい音は殆ど聞き分けられないような状態となっている。

それを更にマッカーサーは日本人の海外進出を阻ませる目的で、読み書きを主とされて、左脳を太らせて英語を不得意とする頭に改造しようとされた！？

と言うもっぱらの噂だ。

そのコメントをされたのは外人さんだから信憑性有りと言える。

細かい音を判別する右脳を貧弱にしているから、母音と子音を区別する外国語は殆ど聞きとることの出来ない状態となる。

するとだ。

外国への遠征などももちろん出来ないけど、自国でも外国人とはいろいろ業務提携など、出来ない状態となる。

更に日本語で言う似非情報ばかり国内では蔓延り情報  
デバイドは広がり！？

何を事実とするか混迷状態となって、国の運営まで支  
障をきたす状態となるのだ。

真実を言う方は少数であるから与太話と受けとられ、  
嘘ばかり蔓延る小国となっているのを現実とする。

このような状態を改善するには日本人を早く英語を理  
解出来る民族にすることだ。

そうするには会話から入ることを事実とする。

英語と言うのは縦社会のはっきりしていない、少数の  
王族と多数の平民の欧米にて、培養をされたものだ。

だからか多くは依頼から入って行ったものと見うける  
。

その依頼文を見ると簡単と言えるものだった。

動詞＋目的語！

**SPEAK FACT！**

「事実を話して！」と言う意味だ。

そして！？SPEAKの後へ「彼へ」と言うhimを入れ

ると！？

SPAK HIM FACT!

「彼に事実を話して！」となる。

この場所に献上の意味のプリーズを入れると！？

PLEASE SPEAK FACT!

「事実を言ってください！」となる。

更に先頭へ主語を入れると！？

I SPEAK FACT!

「私は事実を話す！」という報告文となるのだ。

更にDOを入れると疑問文となる。

DO I SPEAK FACT!?

「私は事実を話しているか！？」となる。



恐らくだ。

依頼文の頭へ主語を付けることで簡単な報告文となるよう仕組んだと言える。

英語と言うのは簡単だろう！？

貴方はこれで英語を話せたのだ。

後は単語を習うだけでいい。

後は「このくらい誰でも出来る」と言う傲慢な方へ一言申す。

欧米人の出来ると言うのは3割をもって言う。

だけども日本人の出来ると言うのは8割をもって出来ると言うのだ。

この差は出来ることを出来ない！？とされて諦めてしまって、地下へ潜らせてしまう残念な方を輩出する結果となる。

日本人はマイナス思考！！と揶揄をされる所以だ。

この悪い癖を直すべきと言える。

「へえ何だ！？簡単じゃないか！？」

と言う方もいるだろう。

日本人は警戒心の強い民族だから何事も油断しないで難しく対応する。

だからだ。

コップ一杯持つに至っても慎重にする。

と言ってもだ。

外国人からするとお笑いでしかないのだ。

コップを持つことをマニュアル化するのも日本人の特徴と言える。

- 1 最初に手を動かす。
- 2 コップに手を触れる。
- 3 感触で内容物の物理的状态を把握してそのデータを脳へ送る。
- 4 過去のデータを照らし合わせる。
- 5 照合したデータでもってリアクションの予想を立てる。
- 6 その予想を元にしてどれくらいの力を入れるか決める。

7 その構築したプログラムによってそのコップを慎重にリフトする。

と言ったように何でもマニュアル化しなければいけないのも日本人の特徴だ。

外国人だったらスイッと持ち上げるだけだ。

だからだ。

日本人の難しいと言うのは吟味を要するのだ。

もっともだ。

人の対応の仕方！？と言う本を出しているのを見ても何処かテンションを下げさせるものだ。

外国人だったら殆どストレートに対応するからだ。

英語なんてそれほど難しいものではない。

ただ習得する過程でドブに落ちることは若干ある。

そのドブに落ちることを「油断したからだ！」と罵るのはどうか！？と思うのだ。

慎重に習えば習うほど頭は膠着する状態となって本末転倒となってしまふ。

英語を話す外国人だって元はベビーであり何もできない状態だったのだ。

ベビーは「英語は難しい！」

とって言葉習得してたらるか！？

否！！

いつのまにか習得してたのだ。

日本人だってベビーのつもりで、英語に対して、無邪気と言える状態で対応すればすぐに話せる状態となる。

ベビーだって最初から難しい言葉をペラペラ話せたわけではない。

簡単な言い方を反復して話せる状態となったのだ。

簡単だからと言って、理屈だけで分かり得たつもりで、後で話そうとしてダメだったの言うはその反復練習を怠ったからと言っていい。

今の英語教育だ。

読み書きばかりやると言うのは、単なる理屈だけを頭に入れているのと同じ状態だ。

だからだ。

左脳でばかり考えてやっているから、左脳偏重となって、エビズな頭へ変化させている状態となる。

英文を左脳で構築し直して、方程式を導き出すようにして、考えてやる癖をつけている。

しまいになるかと言うと、左脳偏重の輩だけあっちこっち蔓延って、まっすぐに歩けない状態となっていて、人と多くぶつかり「ごめんなさい」の声をあっちこっちで耳に届く状態となるのだ。

だからか読み書き学習は最初からやるものでないのだ。

最初は話すことから始めるのだ。

簡単なフレーズを何回も反復練習することをもって！  
？

脳内におよその英語の基本OSを構築出来る。

するとだ。

自分でも信じられんほどペラペラとなる。

どのような難しい英語の構築も基本の構築状態と変わらない。

だからか基本を習得すれば応用だってすぐ出来る。

これからはこのやり方で貴方へ講じようと思う。

レッツプラクティス！！

さあこの場所からプラクティスと行こう！

よく我々の使う文に「カムヒアー」と言うのを見うける。

実を言うところの依頼文さえも文法を踏襲しているのだ。

どう言う意味か！？

Come（動詞） here（目的語）

となる。

文法に沿って訳すと！？

来い・こっちへ！

となる。

よって！？

「こっちへ来い！」と言う意味だ。

簡単だけど重要な場所だ。

日本語と異なってひっくり返っている筈だ。

外国人の考えはこう言うところから見えて来るのだ。

「来い！」と言うのを先頭に持って来ると言うのは重

要なのは動詞の部分だからだ。

何をやらせたいのかを重視している外国人。

何を？とか何処へ？を重視している日本人。

この差はあまりにも大きいのだ。

外国人は日本人の話を聞くと前置きを長くしてじれったくてイライラすると言う。

その原因はこう言う文法に見うけるのだ。

何をされたいのか？知りたいのだ。

目的とか場所は二の次となる。

さあ！

このCome here!を何度も練習して見よう！

闇雲に言うのではなく、どの部分は動詞で、どの部分は目的語かを意識して言うのだ。

「簡単でつまらない！」なんて言う方は何をやってもつまらないだろう。

今まではカムヒヤーを構造を理解して言っていたわけではない。

けども今度は構造を理解して言っている。

この差は大きいのだ。

さあそうしたらこの文の先頭に主語の私！？を入れて

見る。

I come here.

となるのだ。

「私はこっちへ来る！」という報告文となる。  
ただ言って置きたいのはこの文は未来文ではなく、よく文書とかで使用されるものだ。

I come me here.

comeの後へmeを付けると「私のところへ」という意味となる。

「私は私のところへ来る！？」というのもおかしいけど意味を理解すると思って我慢して貰いたい。  
こうして貴方は英語の基本構造をマスターしたことになる。

後はこの場所へいろいろつまらんパーツを付けることをもって、いろいろ変化の飛んだ文を話せる状態となるのだ。



だけどもこの場所ではこの簡単な依頼文を頭へこびりつけることを目的とする。

先人は言葉を形成する順序とすれば他人へ働きかける依頼から始まったのは自明だからだ。

Speak Japanese!

これも「日本語を話せ！」という意味となる。  
言うまでもなく先頭＝動詞で後＝目的語となる。  
同様にして何回も構造を理解して言って見る。  
理解したら今度は先頭にIという主語を入れて見る。  
すると！？

I speak Japanese.

という報告文となって「私は日本語を話す！」という意味となる。

Teach route!

言うまでもなく「道を教えろ！」と言う意味だ。  
もちろんこの言葉をストレートに言うと殴られる。  
ぞんざい過ぎるからだ。

だけどもこの場所では構造を理解させる上でこのような言い方をする。

しかもこの言い方はもっとも簡単だし偏屈なものだから強盗しか使わんだらう。

構造を意識しつつ何回も言ったら同じく先頭に主語を付けて見る。

I teach route!

「私は道を教える！」となる。

このようなプラクティスを何回もやっていると英語の基本構造をマスター出来る。

何度も言うけど「このくらい知っている！」と言う方は左脳で理解していると言うだけだ。

実際話して見ると！？

考えてようやく口から出る計算言葉だと言って置こう。

パッと話せて自分のものとなったと言えるのだ。  
以上の順で依頼形から基本形へと反復しつつ練習する。  
。

DOを先頭へ付けると疑問文となる！？

---

さあこの場所までプラクティスをされた方は英語の基本構造をマスターしたこととなる。

その内訳は！？

主語＋動詞＋目的語！！

となる。

どのような難しい文も基本はこれだと言うことだ。

この場所にいろいろなパーツを付けると様々な文へ変化する。

それでだ。

言い遅れたけど主語にはI（私）You（

貴方）He(彼) They(彼ら) She(彼女) We（我々）と

いろいろあるけど！？

HeとSheの場合は動詞へsを付けることとなっている

。

何で？と言う理屈はどうでも良い。

そのようなものと頭へ入れて置くことだ。

speakだったらspeaksとなる。

playだったらplaysだ。

studyだったらstudies!?

少しだけ異なるのはyの前は子音だったらiesを付けることとなっている。

こういうややっこしいものを英語には多々見うける。理屈より憶えろだ。

さあ前置きは長くなったけど、この場所では先頭にパーツを付けることをもって、疑問文に変化させることを講ずる。

You play baseball!

「貴方は野球をする！」

と言う意味となる。

貴方はこの場所までプラクティスを十分にやったからどの部分はと言う意味か分かる筈だ。

この先頭へDoを付けると疑問文となる。

Do you play baseball?

「貴方は野球をしますか？」と言う文となる。

簡単だろう。

だけでもHeとかSheとかだと冒頭で述べたややこしい変化を生じらせるのだ。

Does He play baseball?

「彼は野球をしますか？」という意味だけど、これさえもこのようなものだと、意に留めて置くことだ。今度は具体的内容を訊く構文を講じよう。

さあ貴方は音楽を聞くか！？と相手に訊いたとする。  
相手はもちろん「聞く！」と答える。

するとその後は「どのような音楽を聞くか？」と訊く  
だろう！？

そうなのだ。

YesかNoだけでなく具体的データを入手したくなる。

その訊き方をこの場所で講じよう！

と言っても読み書きのできる方は別に聞く程のこと  
もない。

だけどこの場所では話し方を習うわけだから読み書き  
とは異なった方法を取る。

さあレッツプラクティス！！

5W1Hと言うのを聞いたことはあるだろう。

When (いつ?)

Where (どこで?)

Who (誰は?)

What (何を?)

Which (どれを?)

How (どうしたか?)

さあこの要素を独立させて使い分ける。

最初は疑問文の後へ間を置いて訊く。

I go to home.

(私は家に行く)

Do you go to home?

(貴方は家に行くか?)

When?

(いつ?)

と言うような順で練習する。

I play baseball.

(私は野球をやる)

Do you play baseball?

(貴方は野球をやるか?)

Where?

(どこで?)



このような練習を何回もして上手く言える状態となったら！？

When do you go home?

(いつ貴方は家に行くか？)

Where do you play baseball?

(どこで貴方は野球をやるか？)

と先頭へ連結して言う練習をする。

後はこのようなタイプもある。

Do you play?

(遊ぶか？)

How?

(どうやって？)

上手く言える状態となったら先頭へ連結して言う。

How do you play?

(どうやって遊ぶ?)

更に!?

I study about Shinzo Abe!

(私は安倍晋三について研究する!)

why?

(どうして?)

Why do you study about Shinzo Abe?

(どうして貴方は安倍晋三について研究する?)

と先頭へ連結して言う。

以上の練習をすると動詞関連の具体的問答は可能となる。

今度はと言うと「貴方は誰だ?」と訊きたくなるだろう!?

その前に英語では「自分は誰々だ!」と言うのも動詞となる。

Be動詞と言う。

次回はそれだ。



私は！？これは！？と言う文をプラクティスする！！

---

外国のいろいろな英語の映画を鑑賞しているとき「イツツファインディー」とかいろいろ聞こえてくるだろう。

このイツツ！？とは！？It isの略だと言うのを知っているだろうか！？

Itとは「それ」とか「状態」を表す代名詞だ。

isとはBe動詞と言って！？

「誰々これこれだ！」と言うのを表す動詞だ。

である！？と言うのも動詞となる。

だからだ。

I am boy!

「僕は少年だ！」となる。

この文さえも英語の基本構造と言える主語＋動詞＋目的語を満足している。

Iは私と言う意味であり！？

amは言うまでもなく誰々だ！と言う意味だ。

boyは少年と言う意味だ。

後は物を表すItとなると！？

It is radio!

「それはラジオだ！」となる。  
そしてだ。

It is beutifull!

これはどっちかと言うと状態を表す。

「美しい！」と叫ぶときに使う。

It isを約してIt'sと表記する場合も多く「イッツ」と言う。

この言い方は主語を取ると依頼形となるのは同様だ。

Be beutifull!

「美しくなれ！」と言う依頼文となる。

主語を取ってisを先頭に持ってくるとBeに変化する。

動詞を先頭に持っていくと依頼文となるのはこの形式

でもって同様と言える。

この状態から見ても英語は法則を揃わせていて飲み込み安いものと言える。

以上の文をThis（これ）That（あれ）These（これら）Those（あれら）I（わたし）You（貴方）We（我々）とかを入れてプラクティスして貰いたい。

複数形を表すThese・Those・WeはBe動詞はareとなるのを留意をされたい。

Youも複数形を表す（君ら）のときもあるからareとなる。

言っとくけどこの本は読み書きは出来る！という前提で造っている。

まったく分からない初心者は別の参考書からひもといて貰いたい。

この場所まではどっちかと言うと相手に対して漠然とされた対応の言葉だった。

だからか下手をすると馴れ馴れしいか！？ふてぶてしく感じられる可能性もあるかもしれない。

ただ欧米ではどっちかと言うと、市民同士の会話から入って行ったらしいから、この状態でも怒りを買うことはないようだ。

だけどもだ。

上流階級となると相手を敬う風潮を少なからずとも見うける。

例えばだ。

Sir!

この意味は尊敬する方へ付ける代名詞と言える。

このように上流階級となると多少相手を敬う風潮を見うける。

恐らくだけど上流階級となると、支配階級に近くなって、敬語を使う頻度を多くするからと見うける。

下流階級の一般市民は、そのような支配階級に直接会うことはないから、多少侮蔑な言い方をされても問題

ない状態だったのだろう。

さあ！！

この後から敬語に値するPleaseを練習して見よう。

この場合も簡単だ。

動詞の前に装着するとよい。

Please play.

話し方の練習だからPleaseの後は動詞だけでやってみる。

この意味はいろいろあるけど「遊んでください」とか「演奏してください」となる。

まだ後ろへ目的語は付けないで貰いたい。

このプラクティスを諳んじられるまでやって欲しいのだ。

Please see.

この場合は「見てください」となる。

こう言うふうは何回でもいろいろな動詞を付けてやっ



て貰いたい。

するとこれだけでも相手に依頼することの出来る状態となる。

さあその後このプラクティスをスムーズに言える状態となったら、後ろへ目的語を付けて貰いたい。

Please play guiter.

「ギターを弾いてください」となる。

Please see my report.

「私の報告書を見てください」となる。

こう言う状態でこのプラクティスを自分のものとする、いろいろな場面で実用性を感じる状態となる。さあこの場所までマスターすると、貴方はあらゆる場面で英語を話せる状態となったのだ。

嘘じゃない。

簡単な御用を足せる状態となったのだ。

後は上達する方法は、余計なパーツを付けることで、

いろいろ複雑な言葉をこなせる状態となる。

但し条件もある。

この場所までのプラクティスをスラスラ言えること。

そしてだ。

単語を出来るだけ多く学習することだ。

単語ひとつだけでも依頼文となる。

Speak!

「話せ！」という意味となる。

ただども国際的と言える場面でこのような言い方は勧められない。

このような言い方はごく親しい方か、マフィアの脅迫で使うものと、言って置こう。

この場所までのプラクティスを自分のものとされたら！？

今度はいろいろパーツを付けて複雑な文をやってみよう。

付属パーツを追加して複雑な文を言える状態とする！！

この場所で言えることは付属パーツと言う状態で認識して置く！！と言うことだ。

けして文法だと認識してはならない。

そう認識すると貴方の左脳は計算式と判断して、左脳で考えて言う状態となる。

そのような状態は避けなければならない。

考えて言うからスラスラ話せないのだ。

貴方はこの場所までは英語の基本構造は理解して、更にスラスラ言える状態となっている。

後は付属パーツを追加するだけでよい。

その付属パーツとはat in about from to likeだ。

そして！？

ing must willとかだ。

このようなものを付けることをもって、ある程度複雑な文を話せる状態となる。

さあレッツプラクティス！！

I speak English!

「私は英語を話す！」という意味だ。  
何処で話すかを説明する場合は！？

I speak English in Japan!

後へin Japanを付けることで「私は日本で英語を話す！」となる。

どうだろう簡単に複雑な文は出来るだろう。

後は「このくらい出来る！！」という方に言うけど、話すのと書くのは、脳では使うところは異なるのだ。だからこの英文を理解出来るからって話せるとは限らないのだ。

I play music at guiter!

後ろへこのat guiterを連結することをもって「私はギターで音楽を奏でる！」となる。

He speaks about political at friends!

後ろへこのat friendsをつけることをもって「彼は友人らに対して政治について話す！」となる。

atとは手段とか「～に対して」という意味となる。

about とは「～について」という意味だ。

後はこう言っても意味は変わらない。

He speaks at friends about political!

この場合はどっちも付属パーツとなる。

He is driver from America!

後へfrom Americaを付けることをもって「彼はアメリカからの運転手だ！」という意味となる。

I play baseball like a child!

後へlike a childを連結することをもって「私は子供のよう野球をする！」となる。

likeは言うまでもなく「好き」という動詞だけでも「

～のような」と言うパーツにもなる。

この場所までは基本文の後に、このパーツを連結することをもって、ある程度複雑な文を言える状態となることを説明した。

この後は動詞へパーツを付属することをもって言葉の幅は広がることを説明する。

He playing game!

この英語は正しくないけど、playの後にingを付けることをもって！？

「彼はゲームをやっている！」という進行形となる。但し！？

正しい文法となるとその前にbe動詞を付ける。

He is playing game!

と言うのを正しくする。

会話では正しい英語を使用しているとは限らないのだ。

I must speak Japanese!

動詞の前へmustを付けることをもって「私は日本語を話さなければならない！」という意味となる。

I will speak English in America!

動詞の前へwillを付けることをもって「私はアメリカで英語を話すつもりだ！」となる。

どうだろう。

英語は思ったより簡単だろう！？

日本人はいろいろな外国語を学ぼうとするときは、まるで英文の学者となるよう、重箱の隅を突くようにする。

だからだ。

効率良く学べないどころか、難しいと誤認して投げ出す結果となる。

どうでしょう！？

貴方は日本語を話すとき正しい日本語を話しているだろうか！？

そのような方は皆無ではないか！？

「てにをは」を略してスムーズに対応出来るよう、効率良くやっていると思う。

そのように同様にして外国人さえもいろいろ簡略化をされて話している。

この場所ではその簡略化を講じて見る。

ただ言っとくけど私経験をもって通じたものだから、どの方にも適用！？と言うわけには行かない。

さあやってみよう。



What speak!?

「何を言っている!？」という疑問文だ。

正確にはWhat do you speak!?!となる。

主語とbe動詞を略している。

日本語だって普段会話するときには「何言っている!？」  
と言ってけして「お前は何を言っている!？」なんて丁寧に言わない筈だ。

Where go??

「何処へ行く?」という意味だ。

正しくはWhere do we go??となって主語とBe動詞を略している。

難しいと言える関係代名詞まで略す。

He boy who become poor!

「彼は貧しくなりつつある少年だ!」という意味だ。

正しくはHe is boy who is becoming poor!となる。  
be動詞を略して更に進行形を普通形にしている。  
このような状態でも通じる方は通じる。

He speak English is too bad!

「彼は英語を話しているのは悪いことだ！」となる。  
正しくはHe is too bad who speak English!となってしまうで異なる。

He speak Englishを名詞にして簡単な状態にしている。

ただこの手法は英文にも良く使用をされているから皮肉と言える。

I drive a car when wet!

「私は雨のときは車を使用する！」となる。  
正しくはI use a car when rain is dropping time!だ。  
この場合は関係副詞となってuseをdriveとされて、更にrain is dropping timeを「濡れる」と言う単語のwet

に置き換えている。

簡略化すると言うのは芸の細かいことだ。

と思うけどどうだろう！？

I afraid why you crazy!

「貴方はおかしいからこわい！」となる。

正しくはI am afraid why you are crazy!だ。

afraidは形容詞で動詞ではないからBe動詞を入れなくてははいけない。

更にwhyの後のbe動詞さえも要するけど略している。

このようなところから見ても「てにをは」を略するのは何処の世界でも共通と言える。

使う頻度とするとそれほどでもないけど憶えておくといいいものだ。

と言うのは！？

相手と恐らく長話をするなら「自分は誰だ」とか依頼とかだけでは済まない状態となる。

どのような難解なものか！？

と思った方は構えを解くといい。

けして難しいものじゃない。

動詞へ前と同様にパーツを付けるといい。

そのパーツとはedだ。

このパーツを付けただけであらゆる動詞は一部の例外を除くだけで「～した」となる。

例えばこうだ。

readed!

「読んだ！」と言う意味で元の動詞はreadだ。

I readed English book!

「私は英語の本を読んだ！」となる。

だけども例外もある。

speakをspeakedとすると誤りとなる。

このように単純に割り切れないものもあるのだ。

speakを過去形にするとspokeとなってこれを不規則動詞と言う。

I spoke Japanese!

「私は日本語を話した！」と言う意味となる。

そしてだ。

疑問文もあるけどこの場合はdidを付けることをもって可能となる。

Did you speak Japanese?

これは普通形のdoの過去形で更に動詞は普通形に戻っている。

どう意味かと言うと！？

「貴方は日本語を話したか？」という意味だ。  
この場合は規則動詞でも同様となる。

さあ受け身となるとどうなるか。

He is controled by outsider!

彼は外部の集団にコントロールをされている！となる。

この場合はbe動詞と動詞controlにedを付けて「コントロールをされている！」となっている。

byは付属パーツで「～によって」となる。

この場合も例外はあって！？

He is spoken in room!

「彼は部屋で語られた！」となる。

spokenとはspeakの過去分詞で受け身を表す。

過去分詞の場合はisとかを省略できる場合もあるようだ。

後は不規則過去形の場合とか不規則過去分詞の場合は、単なる動詞へedを付けることをもって、誤魔化せるようだ。

不規則過去形の場合は進行形にしてwasにすることをもって誤魔化せるようだ。

spokeはwas speakingをもって代用できる。

「話していた！」となる。

wasとかwereとかはbe動詞の過去形で「～だった」と言う意味で使用する。

I was officer!

「私は警備員だった！」となる。

さあどうだろう！？

さあこの場所まで辿り付いたらある程度まではペラペラ話せるような状態となっていると思う。

だけどもこの場所までは一般の学力でしかないようだ。

「おー出来るなあ！？」と思わせるにはこの特殊な形式を臆えるべきと思う。

その内容とは！？

現在完了形と現在完了進行形そして感嘆文だ。

この形式を話すと少しだけ通に見れるようだ。

I have practiced English!

「私は英語を（過去に）練習していた！」

だけどもこの文からは殆どピンと来ないだろうと思う。

経験を言う文だけどどうしてhaveだと言うのか！？

これを直訳するとなるほど！！と思わせる。

「私は英語を練習していた！を持っている！」

おお！！



分かりやすい。

haveは持つと言う動詞だから！？

「やっていたのを持っている」と言うから経験を表すのは自明と言える。

この場所にjustを入れると！？

I have just practiced English!

「私はちょうど英語を練習していたところだ！」となる。

このpracticedは過去形ではなく過去分詞と言うのを留意して貰いたい。

更にこの現在完了形は進行形にもなる。

I have been speaking English for three years!

「私は3年間英語を話している！」  
おお凄い。

I have been speaking English long ago!

「私は昔から英語を話している！」

I have been speaking English since 1977!

「私は1977年から英語を話している！」

具体的！！

このように高度な文さえも基礎さえしっかりしているとすぐに話せる状態となるのだ。

I haveはI'veと略して「アイブ」と言ってい。

充分研究をされたい。

今度は感嘆文だ。

What funny he is!

「何ておかしいんだ！彼は！」

こう訳すと分かりやすい。

「彼は何ておかしいんだ！」となる。

「おかしい！」と言う表現は適切じゃなければ「微笑

ましい！」と訳すべきだろう。

突飛な状態で出したのは是非とも頭へ入れてほしいからだ。

後は先頭にHowを入れてもいいだろう。

相手を唸らせてしまう程の複雑と言える文の構築法をこの場所で講じよう。

おそらくこれを言えると、貴方をプライマリーな方と相手は思わんだろう。

このやり方はコツさえ飲み込んでしまえば、誰でも出来てしかも思ったより簡単だ。

だけどもだ。

条件を言えば英語の基本構造を体得していれば！？と言う話だ。

何てったってこの関係副詞と言うのは、単純に英語の基本構造を二つくっつけただけだ。

前頁で少しだけ触れたけど、この二つの文の間にwhenとwhyを入れるだけでいいのだ。

どうだろう！？

さあやってみよう。

I saw him when I went to KYUSHU.

「私は九州へ行ったとき彼と会った」

これを二つに分解して見よう。

I saw him.

「彼と会った」

I went to KYUSHU.

「私は九州へ行った」

この二つの文を「~のとき」と言うwhen~をもって結んだだけだ。

たった二つの文を結んだだけで複雑な文を言える状態となるのだ。

もう一つは！？

I get a hi-average why I practice many game.

「私はたくさんのゲームで練習したから好成績を取れる」

これだって二つの文をそのわけを訊くwhyをもって連結している。

I get a hi-average.

「私は好成績を取れる」

I practice many game.

「私はたくさんのゲームで練習する」

どうでしょうか！？

この二つの文を連結することをもって表現の幅は驚くほど広がるのだ。

しかもそう難しくない。

これを学習しない手はない。

この場所まで自分のものとされた貴方は何でも話せると思う。

数学でもって証明可能だ。

Aを二乗にするとその分だけ表現範囲は広く多方面に応用出来るのだ。

これをもって貴方は英語を出来る！？と言える状態となった。



この場所まで読むのは誰でも出来る。

文字を読めない方は殆どいないだろうから。

けどもこの書物は読むだけのものではない。

どう言う意味か！？

読むだけのものだったら、これほどつまらない書物はないからだ。

読むだけだったらすぐに読了してしまうだろう。

けどもこの書物は、単なる読み物ではなく、イングリッシュスクライバーポスターの書いた英会話テキストだ。

何だ！？その横文字は！？

と言う方へ説明すると「ブログとかへ外国人でも分かるように英語で投稿する方」を言う。

私はそのはしくれ！？と言って置こう。

その文体は会話文体だ。

スクライバーとは日本語で言うなら「軽い投稿」と言ったところか！？

その現役の書いたテキストだから、下手な参考書より、身に付く可能性は高い。



この場所で言うけど「玄人」と言うのは黒く洗脳をされているから、難しく編成してしまうのは自明と言える。

一般人の感覚は殆どないから専門用語の羅列で煙に巻いてしまう可能性だってある。

本末転倒とはこう言うことを言うのだ。

だけども私は英語の専門家ではなく一般人で、更に英語を使用できるから、どう言うところを留意してどのようになれば上手く会話できるか分かり得ているから、このテキストを書けたのだ。

一般人の取っつきやすいテキストを書いたつもりでいる。

だからか「貴方はどのような身分でこのテキストを書いたのか？」と言うなら、以上の身分で書いたと言って置こう。

さあこの内容だけど？

何処の教科書もやってないだろうと言える依頼文から幕を開けている。

どうしてかと言うと？

たった二語で一番簡単な文体からやっているから学習

しやすいと言うことだ。

依頼文は英会話を学ぶには最初に学ぶべきものだけど、殆どの教科書はSVOC形式からやっているから、殆どついていけないのだ。

簡単な依頼文から、学習することをもって、それをマスター出来たら、その先頭に主語を付けることをもって、英語の基本構造であるSVOC形式は完成する。過去の多くのネイティブらはそのように英語を学習していたのだ。

更にこの場所で言いたいのは、英語文体を多く学ばなければ、英語は話せないような考えを日本人は持っていると言うことだ。

だからか少しだけの文体だけしか学んでいない場合は、公には「英語はできない！！」なんて言ってしまう。

これも問題だと言えるのだ。

少ない文体だけでも、いろいろ積み木のように組み合わせて表現出来る！と言うのを忘れてはならない。

これを有効利用と言うのだ。

例えば関係代名詞で「私は英語の話せる日本人だ！」

と言うなら？

I am Japanese who can speak English!

となる。

だけどもこのような難しい文体を使用しなくてもいいのだ。

I am Japanese!

I can speak English!

と言えば同様となるからだ。

簡単な文体をいくつもつないで言えば同様なのだ。

だからだ。

簡単な文体をいくつか学んだときにはもう英語を話せるのだ。

それをどうにか知って欲しい思いでこのテキストを浅学の身であっても書いたのだ。

このテキストを多くの方の勉学の向上に役立てられたら幸いと思う。

## 英語は依頼文から学ぶと話せるようだ！？

<http://p.booklog.jp/book/109593>

著者 : yokotasakka

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/yokotasakka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/109593>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/109593>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社ブクログ